

公人として懸念する前に議員の意識改革が先決

弥彦村議会二二日目の様子を「B氏が一般質問」と三條新聞は報じていました。本多氏「ビジョンなく思いつき村政」との見出しに接し、傍聴人に配布した一般質問通告書を借りて質問要旨を読んで見ました。

本多啓三議員は、検証小林村政四年の軌跡の中で、就任早々の商工会長人事への介入、御遷座百年に合わせるべく旧ブランドホテル跡地の整備、不可解な入札制度、談合疑惑裁判、木質バイオマス発電所による売電で財力の強化は頓挫。「これら多くの村民が「ビジョンなく思いつき」の村政に首を傾けております。極めつけは、匿名による記者もどきの投稿文。公職選挙法で選任されて公人である議員を名指しでの誹謗中傷の数々。今弥彦村は住みたくない村となり人口減少に拍車がかかり、近隣の方々からも懸念の声が多く届いています。

す」原文通り。注：談合裁判は朗読しなかったとのことと記載されています。

いつもの口調で書かれていますので、日頃の言動からこんなもんだろうとの感想でした。その中で匿名による記者もどきの意味がわかりませんが、公職選挙法で選任された公人である議員を名指しでの誹謗中傷の数々を目にし、筆を執ったところです。これは昨年春から三條新聞の合流点に、議員の発言などに疑問を感じた村民が投稿されたことを、公人である議員を名指しで誹謗中傷と表現している事です。すべにわかりました。私も数回投稿しました。

広辞苑によれば誹謗とは悪口を言うこと。中傷は無実のことを言って他人の名誉を傷つけること。と書かれています。そこで私の投稿に対する考えを言います。第一は、対象が私人か公人かを明確にしています。選挙で選ばれた議員

という公人の発言は、影響力がきわめて大きいため、村民の一人として意見を投稿しています。第二は、村のホームページ、会議録や新聞記事、日常的に入ってくる様々な情報を総合的に検討して、客観的にできる限り正確な内容で投稿しております。

投稿のきっかけは一年半前にさかのぼります。三月議会が終わったあとで、是々非々を明確した某議員突然の議員辞職でした。二期目の再選を果たし、村のため村民のための政策実現に期待していました。二期目に入り一年がたった直後の突然の辞職に疑問を感じたからです。熱烈に支持した方の理由もわからない突然の辞職信じられずばう然としました。しかし時間の経過と共にさまざまな情報が入り、私人公人の名前も見え隠れする理不尽極まった辞職までの経緯に愕然としました。あのときの衝撃と悔しさは人生最大の憤りに変わり、未だに忘れることができせん。

少しでも知り得た事実を明らかにしなければこの村の将来はない、この私なりの郷土愛から議会の動向や議員の発言に関心を持つようになりました。発言が記録される公開の場で、本多啓三議員が「公人である議員を名指して誹謗中傷」と表現されたと聞いて、投稿者の一人として反論をします。小生が投稿した内容には、事実を基としていまずので作り話や歪曲は一切ありません。匿名誹謗中傷は全くの見当違いです。次に五人の議員の名前についてですが、皆さんは実名入りの共同の議会報告を新聞折り込みで配布されたではないですか。議員は公人として何を言っても許される訳ではなく発言には由々と責任が伴います。議会報告は事実を正しく伝える内容でなければなりません。初回の議会報告には、根本的に違う箇所がありました。知らない人は真実と勘違いしてしまっているのではないか、合流点に投稿するべきではないか、

合流点に頼るのではなく、議員に直接意見を言う方法もあります。しかし、過去の事例、突然の辞職例、村の端っこで爪に火をともし辱らす者との力関係を考えれば、想定外の圧力や災難が家の及ぶであろうとの確信があるからこそ匿名なのです。村内のことを一番よく知っている本多啓三議員さんは、順調な昇進を続けて副村長をされた方ですので、普通の人が匿名にする理由が理解できないのかもしれませんが。

三條新聞の合流点にはいろいろな意見が匿名で紹介されています、役所や団体の意見も載ります。誹謗中傷と言うのであれば、匿名であっても堂々と指摘し、反論し議員の名誉を守ればいいのではないですか。誹謗中傷といつのであれば村議会の名誉に関わる問題ですので、議長名で反論する方法もあります。

公人として懸念する前に、村の将来がかかった政策を決める議会を構成する議員の意識改革が先ではないですか。本多啓三議員の持論、反論を期待します。

(弥彦村の年寄り)